

土地のきまりの変化と天平文化

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

奈良時代の中ごろ、土地のきまりはどう変わり、どんな文化が栄えたのだろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 ゆらぐ土地のきまり

土地のきまりの変化

2 743年。新しく開墾した土地を、いつまでも私有してよいとした法。

3 貴族や寺社の私有地。のちに各地に広がる。

人口が増えると、人々に与える口分田が足りなくなった。逃げ出す人が出て、荒れてしまう田もあった。そこで国は、新しく田を開墾させるために、723年に開墾した土地を3代にかぎって私有することを認め(¹ 三世一身法 さんぜいつしんのほう)、さらに743年には ² 墾田永年私財法 を出して、開墾した土地をいつまでも私有してよいことにした。

すると、貴族や大きな寺院・神社は、周りの農民などを使って開墾を進め、私有地を広げていった。これらの私有地は、のちに ³ 荘園 とよばれるようになる。土地と人々をすべて国のものとして治めるしくみは、少しずつくずれ始めた。



2 仏教の力と天平文化

文化

4 国ごとに国分寺・国分尼寺、都に東大寺と大仏をつくらせた。

7 民衆に仏教を広め、橋や用水路をつくった僧。大仏づくりに協力した。

9 何度も渡航に失敗し、目が見えなくなりながらも来日した唐の僧。唐招提寺を開いた。

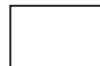
11 聖武天皇の愛用品などを納めた東大寺の倉。

8世紀の中ごろ、都では伝染病が広がり、ききんや貴族の反乱も起こって社会が不安定になった。⁴ 聖武天皇 は、仏教の力で国を守ろうと考え、国ごとに ⁵ 国分寺 と国分尼寺を、都には ⁶ 東大寺 を建て、金銅の大仏をつくらせた。大仏づくりには、民衆に仏教を広めていた僧の ⁷ 行基 も協力し、752年に完成を祝う儀式が行われた。

このころ、朝廷はたびたび ⁸ 遣唐使 を送り、唐の制度や文化を取り入れた。唐からは僧の ⁹ 鑑真 が来日し、正しい仏教の教えを伝えた。こうして栄えた、唐の影響を強く受けた国際色ゆたかな文化を、聖武天皇のころの年号から ¹⁰ 天平文化 という。東大寺の ¹¹ 正倉院 には、シルクロードを通して伝わった、西アジアやインドの影響を受けた品も納められている。

また、国のおこりや天皇の由来を記した歴史書の ¹² 古事記 (712年)と ¹³ 日本書紀 (720年)、地方の産物や伝説を記した ¹⁴ 風土記 がまとめられた。天皇や貴族から防人や農民までの和歌を集めた ¹⁵ 万葉集 もつくられた。

できた



/ 15

